

1 はじめに

本学級の児童は明るく元気であり、図画工作科が好きな児童が多い。しかし、図画工作科が好きでも絵をかくことに苦手意識のある児童も少なくない。児童の中には、「かきたい」と思っている、「失敗すると恥ずかしい」という考えからかくという行動に移さない児童も多く見受けられる。

本題材の『クローズアップすると見えたよ！〇〇の世界！』では、「接写した写真の形や色から、想像したり、考えたりして思い付く」ことを通して、創造的に発想や構想をし、主体的に絵に表すことを目標としている。まず、タブレットを使って、普段見慣れている場所やものに関心を持ち、拡大機能を使って接写をする。次に、その写真を基にイメージを広げて、表し方を工夫して表現させた。絵をかくことに苦手意識のある児童も主体的に活動し、自由に想像した世界を考え、児童一人一人が自分らしく表現することができた。また、グループの中で他の児童から感じ取ったことをヒントにして、さらに自分の見方や想像力を深める活動につなげていった。

2 指導の実際

(1) 『クローズアップすると見えたよ！〇〇の世界！』〈A 表現 (2) 絵に表す・B 鑑賞〉

①目標 ア 写真からイメージを膨らませ、自分の想像した世界を意欲的に表現できる。

イ 材料（撮った写真）の形や色の特徴からイメージを膨らませ、表現したいことを見つけることができる。

ウ 表す材料の形や色などの特徴を生かし、伝えたいイメージを表現する工夫ができる。

エ 材料の特徴を捉え、自分や友達の表現の違いや共通点を認め合うことができる。

②実践内容

第1次 身近な場所や小さなものを、タブレット機器で接写する。・・・1時間

第2次 集めた写真から想像を広げて自分のイメージをもったり、友達の良さや工夫を見つけたりして伝え合う。・・・1時間

第3次 自分のイメージを大切にしながら、表現方法や描画材料を選び、工夫して絵に表す。・・・3時間

第4次 友達の作品の表し方の良さや工夫を見つけ、伝え合う。・・・1時間

3 結果と考察

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について

この題材は、身近な場所やものの見方を変え、新しい視点から気づき、表したいものを明確にしていく表現活動である。当たり前過ぎて見過ごしていた場所やものを新しい視点で見直し、気付かなかったさまざまな魅力や不思議さを見いだすところに題材の楽しさがある。

第一次では、児童は、1台のカメラ機能の付いたタブレット機器を3～4人で使用し、いつもは見過ごしている身近な小さな場所やものに関心を持ち撮影した。その際に、撮影する時間と枚数、それに撮影してもいい場所を確認した。児童は、一人一人好きな場所やものについて、クローズアップしたり、少しアングルを変えたりして撮影していた。また、撮影したグループの中では、この時点で、接写して大きくなった場所の形や色から発想し、表したいことを見つけている児童もいた。既に表したいことをイメージできている児童が意図的に撮影する姿を同じグループの子が見て、その姿がきっかけとなり、かきたいイメージを浮かべた児童もいた。

(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて

第二次では、児童は、撮影した写真から受けた印象から自分の思い描く世界を想像し、表したいことを見つけ、それを基に発想を楽しみ、構想を広げることで、「かきたい」という意欲が高まり表現していった。製作する前にワークシートを活用することで、撮った写真から気付いたことや自分の捉え方を発表し合ったり、友達の捉え方や発言内容から、ひらめきや新たな製作への思いを得たりして、よりよい作品づくりへの意欲が高まり、第三次の鑑賞活動につながることができた。

児童が撮影したのは、くじびきの箱やファスナーなど、自然や人工物の小さな場所やものをクローズアップしたもので、児童の話を読まない場所がわからないものもあった。撮った写真を紹介し合う場面では、「ああ、なるほど。」「いいところに気付いたなあ。」など、いろいろな感想が聞かれ、撮った児童の思いに共感したり、製作への手がかりになるような言葉がけをしたりする姿がたくさん見られた。

一見、3つの歯のように見える写真を紹介したAさんは、3個の小さな消しゴムを撮ったことを発表した。その写真の形や色、動きからAさんがイメージしたのは、ある惑星に降る隕石であった。消しゴムを隕石に見立て、表現するAさんの豊かな発想に驚いた。また、Bさんは、書類を入れるレターケースを真下から見上げるような写真を撮った。Bさんがイメージした物は高層ビルで、見上げたビルの様子がよく表現されていた。グループ内の児童が写真を撮った時の理由や撮るときの工夫、友達がどうして興味をもったかを聞き、共感する姿も多く見られた。この時には、絵をかく時に「失敗したらどうしよう。」という不安はなくなり、自分らしい表現を楽しむ児童が増えたように感じた。

(3) 主体的に表現したり鑑賞したりする活動について

完成した作品をまず、撮影をしたグループの中で鑑賞し合った。これまでの考えや思いを理解した上で、より多くの視点から深く、グループ内の友達の作品を理解することができると考えたからである。まず、いつもは見過ごしている場所やものをどうして撮影したかという理由とそれをどう表し方を工夫したかを発表し合った。この段階では、発表するのが苦手な児童のために、発表原稿にもなるワークシートが有効であった。発表する時に余裕もでき、友達の意見をしっかりと聞いたり、さらに自分の考えを書いたりすることもできたのではないかと考える。

次に学級での鑑賞活動を行った。全体での鑑賞活動では、作品に対する自分の思いを一人一人が伝え合う時間を最初にとった。作品に対する反省を発表する児童もいたが、発表を聞いていた児童は、「わかる、わかる。」「自分もそうだった。」など、うなずいて共感している場面も多く見られた。この題材を通して、表現活動の場で、自分の表現を振り返り、自他の表現への試みのよさを肯定的に捉える児童が多くいて嬉しく感じた。

4 おわりに

この題材では、児童が自分の捉え方を発表したり、話し合ったりする場を設定した。また、ワークシートを工夫して、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることが豊かな表現活動につながることを、この題材の実践を通して実感した。児童が、自分の思いや考えを発表する場を設けることで、自他の考え方や表し方の違いに気付き、そのよさを認め合うことができた。今後も、アイデアやひらめきを大切に、作品をつくりだす喜びを味わうことができ、友達の作品を見て思いや考えを感じ取ることができる授業づくりに取り組んでいきたい。